

12 藤川のまつ並木 (岡崎市指定天然記念物)

所在地	藤川町地内		
樹種名	クロマツ		
樹高	18.5m	幹回り	2.5m
根回り	3.0m	枝張り	11.5m

藤川町地内西側、旧東海道の両脇に位置する。藤川町地先1 kmの大半は後継樹で占められている。その中であって樹齢約400年の数少ない老松が、それぞれ独特の樹姿で生立している。



52 長福寺のまつ

所在地	竜泉寺町字前田9		
樹種名	クロマツ		
樹高	12.5m	幹回り	1.9m
根回り	2.8m	枝張り	6.9m

本堂の正面前方に位置する。推定樹齢200年とされ、庭としての趣のある境内にあって一際目立つ独立した老松である。直幹で荒れた幹肌と程よく剪定された枝ぶりなど端正な樹姿である。



13 山中八幡宮のクスノキ (岡崎市指定天然記念物)

所在地	舞木町字宮下8		
樹種名	クスノキ		
樹高	29.0m	幹回り	7.2m
根回り	11.2m	枝張り	26.5m

社殿に至る長い石段の登り口右手に位置する。樹齢650年ほどと推定され二又に分かれた1本の幹回り4 m など、老木で均整のとれた広い樹冠はクスノキの名木のなかでも屈指の樹姿と思われる。



53 長福寺のくすのき

所在地	竜泉寺町字前田9		
樹種名	クスノキ		
樹高	19.5m	幹回り	3.3m
根回り	5.5m	枝張り	13.3m

本堂に向かって左手庭池の対岸に位置する。梢端部の枝葉は疎である反面、幹の立上り枝ぶりなどがよく分り老木の特長がよく出ている。



14 法蔵寺のイヌマキ (岡崎市指定天然記念物)

所在地	本宿町字寺山1		
樹種名	イヌマキ		
樹高	15.5m	幹回り	2.6m
根回り	3.9m	枝張り	12.9m

本堂に向かって右側に位置する。樹齢1200年とも言われ、イヌマキとしては市内最大級で、根元近くの幹には、腐朽により空洞があり、年代の古さを物語る。下枝は横に長く伸び、樹冠の拡がりなど自然の樹姿である。



55 扇子山の大いぬしで

所在地	山綱町字扇子山 (駒ヶ滝地先)		
樹種名	イヌシデ		
樹高	20.0m	幹回り	2.0m
根回り	3.1m	枝張り	20.0m

駒ヶ滝駐車場から少し下がった右手方向への登り道を、少し登った左側の下り斜面に位置する。広葉樹を主体とした天然林の中にあり不均整な樹姿である。幹肌に特長があり当地方の山林では珍しい。



15 法蔵寺の桜 (岡崎市指定天然記念物)

所在地	本宿町字寺山1		
樹種名	ヤマザクラ		
樹高	9.5m	幹回り	1.8m
根回り	2.0m	枝張り	8.5m

本堂前の参道右手に位置する。家康公お手植えの桜として、現在3代目といわれる。地際から二又にわかれた幹と萌芽した若枝による独特の樹姿である。



56 小早川家の大なぎのき

所在地	鶴巣町字クラ20		
樹種名	ナギ		
樹高	22.5m	幹回り	2.8m
根回り	2.8m	枝張り	14.0m

屋敷西側の土蔵裏に位置する。樹齢400年と推定され、民家にあるのは数少なく珍しい。二又に分かれた双幹で樹皮は剥げ、濃緑色の葉で覆われたナギ特有の樹姿である。



51 長福寺のいぬまき

所在地	竜泉寺町字前田9		
樹種名	イヌマキ		
樹高	13.0m	幹回り	2.0m
根回り	3.0m	枝張り	8.0m

参道入口の右側に位置する。樹齢は100年以上と推定され、幹はねじれ縦に深い溝がある。枝葉はよく繁り老木とは思えぬ樹姿である。



98 社口の大榎

所在地	羽栗町字中屋敷72		
樹種名	ムクノキ		
樹高	18.0m	幹回り	4.3m
根回り	6.6m	枝張り	24.4m

県道324号線の名鉄羽栗バス停西の羽栗橋を渡って、すぐ左側に位置する。鈴木一族の屋敷神として、15世紀半ばごろシャグチ神(一族繁栄・安産の神)が祀られた。その際に植えられ、社口神とともに当樹は大切に守られてきたと思われる。



102 大幡の千年イチョウ

所在地	大幡町字中屋68		
樹種名	イチョウ		
樹高	12.0m	幹回り	3.5m
根回り	8.8m	枝張り	11.9m

大幡農村公園の隣接地中央に位置する。イチョウの古木で、千年イチョウと呼ばれている。多数の幹が株立ちする樹形は独特な形態であり、印象的である。また、秋には見事な枝ぶりと黄金色の葉が素晴らしい景観を見せる。



104 本宿陣屋の大きくすのき

所在地	本宿町字南中町32		
樹種名	クスノキ		
樹高	17.0m	幹回り	3.8m
根回り	4.0m	枝張り	26.0m

富田病院駐車場の東側に位置する。樹齢300年以上と推定され、形状は傘を広げたような美形である。富田家は、江戸時代中期から旧本宿村に設けられた陣屋代官職を代々勤めた家柄で、大きくすのきは、陣屋の屋敷神的存在として大切に保存されている。


